

# 9

## 景観計画重点区域 2

### 小田原駅周辺地区の色彩

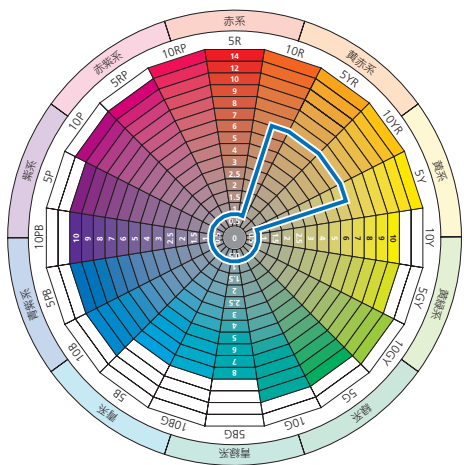
#### 建築物・工作物の外観の色彩

##### 制限の考え方

樹木の緑（彩度6程度）が映えるようにするとともに、暖色系が主体で明暗の対比がはっきりとした既存のまちなみの特徴を顕在化するため、暖色系色相では選択肢を広く、寒色系・その他の色相ではより慎重な色彩選択を促しながら、秩序と風格のある色彩景観の形成を図ります。

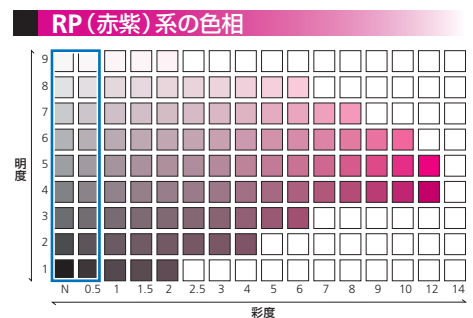
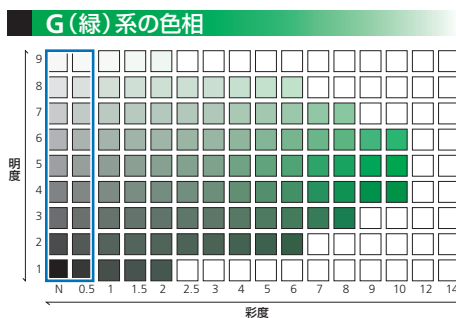
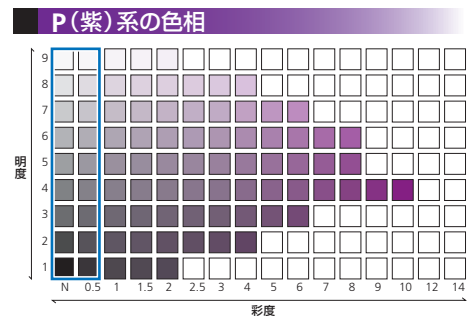
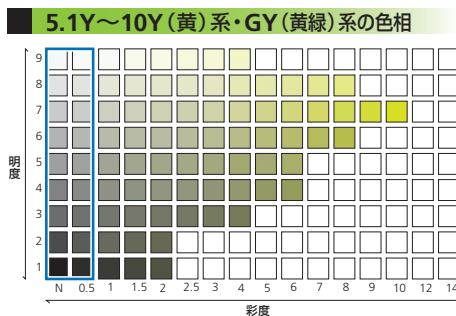
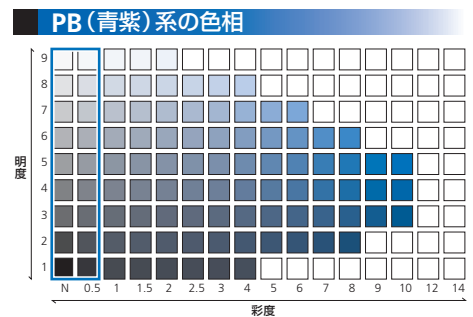
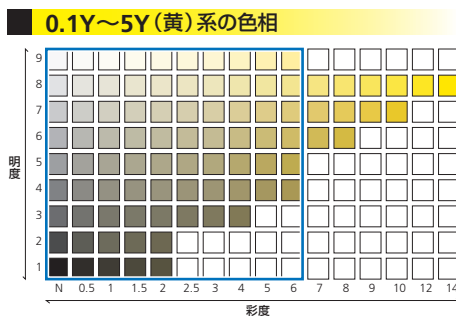
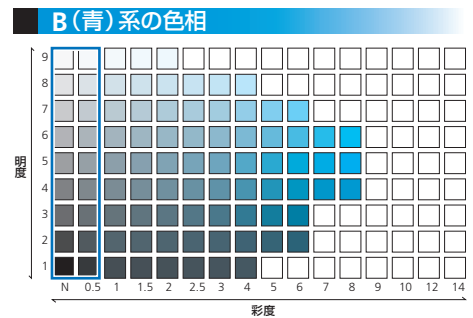
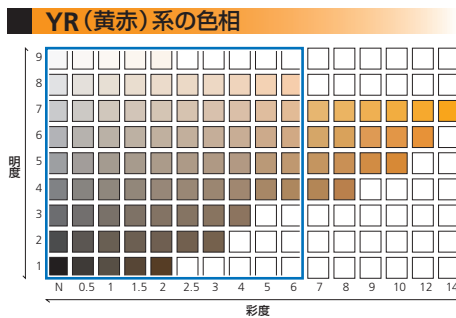
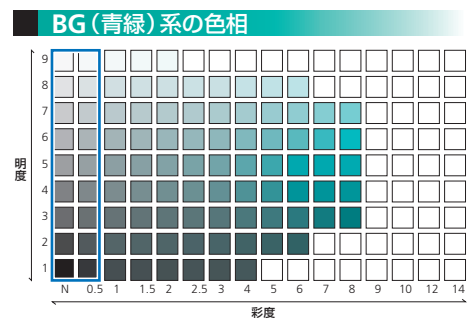
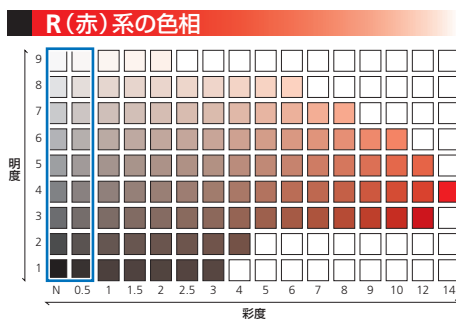
明度については、明暗のメリハリがきいた既存のまちなみの特性を活かすため、制限は行いません。


\*建築物・工作物の見付面積の1/5未満の範囲内で用いる色彩については制限がありませんが、できるだけ小面積とし、低層部に集約するなどの配慮により、まちの賑わいと品格のバランスに配慮する必要があります。



対象部位	色相	明度	彩度
外観	0.1YR～5Y	制限なし	6以下とする
	その他	制限なし	0.5以下とする
自動販売機 <sup>*2</sup>	5Y	7.5	1.5

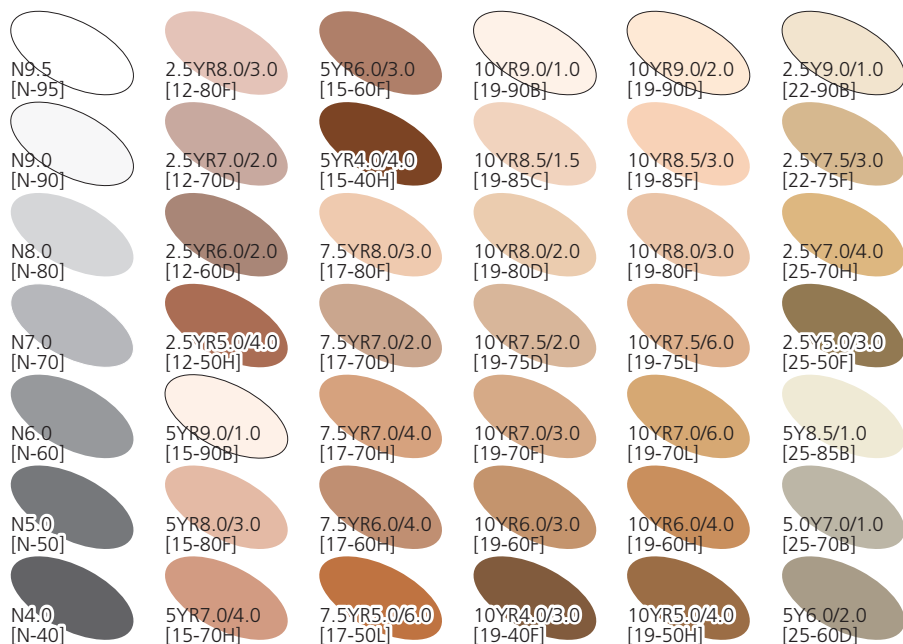
<sup>\*2</sup>ただし、木製の囲いなどにより周囲と調和するように修景を行った場合はこの限りではありません。



凡例  建築物・工作物の外観の基調色の使用可能範囲

## 制限範囲内の色彩例—外壁

(記号はマンセル値、[ ]内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。)

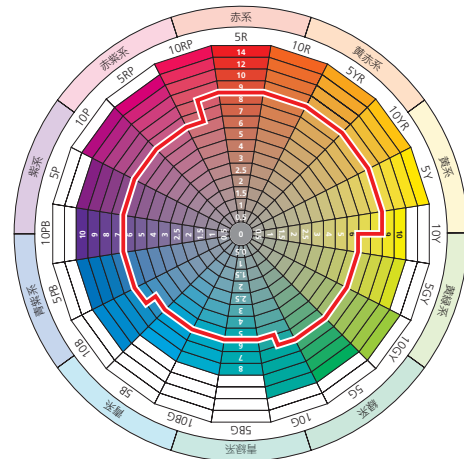


## 屋外広告物の色彩

## 制限の考え方

小田原市の顔であり富士伊豆箱根地域の広域交流拠点でもある駅前の景観を風格と賑わいのあるものとするために、屋外広告物の地色※<sup>1</sup>に原色など派手な高彩度色を用いないよう誘導を図ります。

※<sup>1</sup>文字以外の部分をさします。面積全体の1/3以内の範囲内で用いる色彩には制限がありません。



## 屋外広告物の色彩デザイン提案…地域のイメージと企業・店舗のイメージを両立した広告景観をめざして



## × 原案

地色に高彩度色を用いており、同様の派手な広告物が集積すると、小田原駅前の景観がげばげばしく、落ち着いたものになってしまいます。

企業のコーポレートカラーが決められている場合でも、地域社会の一員として周辺との調和の観点から表現を工夫し、まちなみ景観と共存していく中で企業イメージの向上を図ることが大切です。



## ◎ 反転表現

配色を反転するとともにイメージを保ちながらも、周囲との対比を和らげることができます。



## ◎ 中彩度色を活かした表現

派手な高彩度色でなく、同色相の中彩度色を地色にすると深みのある落ち着いた印象になります。



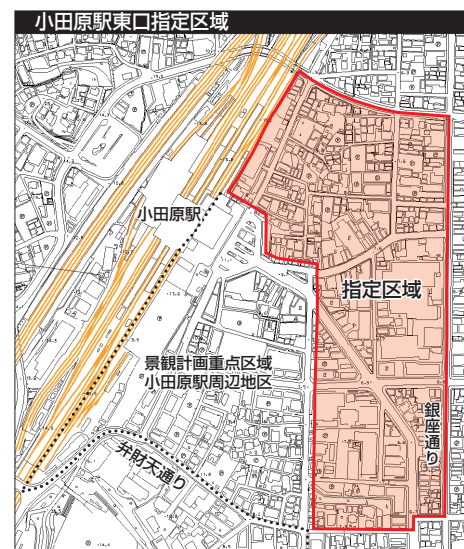
## ◎ 額縁表現

広告物の四方に額縁のように白い枠を設けると高彩度色の面積を減らすことができます。



## ◎ 素材や質感を活かした表現

色による表面的な装飾でなく、金属やガラスなどの質感を活かすと高級感のある表現になります。



景観形成の効果を高めるため、小田原駅東口の指定区域では、屋上広告物について、小田原駅周辺地区と同様に色彩の誘導を図ります。(カラー写真や絵画等の使用不可)

対象部位	色相	明度	彩度
屋外広告物の地色 日よけテント	0.1R～10Y	制限なし	8以下とする
	0.1GY～10G、 0.1PB～10RP	制限なし	6以下とする
	0.1BG～10B	制限なし	5以下とする

※カラーの写真や絵画等の部分は、色彩基準に適合しない部分とみなします。

※和風の意匠によるのれん、日よけ幕については、1色に限り上記範囲外の色彩を用いることができます。

## シミュレーション…避けたい景観イメージ(左)と改善例(①制限範囲内の色彩を基調とする。②低層部に賑わいをもたせる。③屋外広告物の色彩に中彩度色を用いる。)

